## 

No.265
March-April 2008



<写真: HIV/エイズに関するメッセージを身につける南アフリカの人々。 左から、"KNOW YOUR STATUS / BREAK THE SILENCE", "AIDS in our community" (冊子タイトル) , "LIVE and let LIVE" >

## HIV/エイズと生きる 南アフリカでの挑戦



也面に畑のモデルを作って、どのような 作物を植えるのかを皆で話し合う。



■給食を食べる子どもたち。エイズ遺児や 家でご飯を食べられない子どもが対象。



■HIV陽性者を対象とした研修。HIVの感 染の仕組みをゲーム形式で学ぶ。

ケアも重要な課題となっています。

報が少なく、偏見や差別が強い農 (次ページ上枠参照) のように

ようというものです。住民がH

## ## HIV/エイズと

### 南アフリカでの挑戦

アパルトヘイトを克服し、アフリカのなかでも強い経済力を持つとされて いる南アフリカ共和国。しかし、光り輝く側面が強ければ強いほど、それ によってつくられる闇は暗く深いものになる。JVCが2005年から支援 しているリンポポ州での HIV/ エイズの活動は、途中、現地協力団体の会 計不正問題に端を発する活動地の変更などを乗り越え(本誌no.259参照)、 開始から2年半が経過した。現地からの活動報告と、国際社会のHIV/エ イズへの取り組みの重要性、そして現地代表の津山の一時帰国の様子をお 届けする。(編集部)

南アフリカ(以下南ア)では、

/エイズの陽性者・患者数は

HーV/エイズの現状

プロジェクト・マネージャー

JVC南アフリカ HーV/エイズ

くつかの要因があげられます。 ○%にものぼっています。

五〜二十九歳の女性の感染率は四 南アでのHIV感染拡大にはい 南

> の誤ったケアの要因となったり、 のみに頼って病院へ行かないなど

に知識や情報の欠如が、

伝統療法

栄養バランスの悪い食事で病気

ます。 ており、こうした子どもたちへの で亡くし孤児になる子どもも増え 族の負担になります。 症すると、 さらに厳しい状況に追い込んでい HーV/エイズは貧しい家庭を H―Vに感染しエイズを発 収入の減少や介護が家 親をエイズ

## 知識・ や偏見が渦巻くなかで 情報の欠如と差別

VCの活動地であるリンポポ /エイズに対する知識や情

不足、 する偏見や差別などが主なもので 神話や迷信、HIV/エイズに対 権を持てない文化、 女性が安全な性交渉に対する決定 らが売買春や複数のパートナーと 稼ぎ労働をする労働者が多く、 しょう。 、パルトヘイト体制の影響から出 '性交渉を持ちやすい社会構造 ,政府の政策的取り組みの遅れ 性交渉に関するさまざまな 教育や情報の

あからさまには話題にしたくな

コンドームの使用や性的な知識 はまだまだ難しいのが現状です

という心理も少なからず働きます。

陽性者のケアについても、

うち約五百五十万人(約八・五人に 五年は人口約四千七百八十万人の いまだに増加傾向にあります。

一人)。女性の感染率が高く、二十

NGOによる活動です。 C B O 組みとして活用されているの エイズに関する直接的な活動の 進行を早めることもあります。 市民団体) こうした農村地域でのHIV (Community Based Organization による在宅ケアや、 が

会でHIV陽性者を適切にケアで や情報を提供することで、 るポロション・ホームベーストケ きる環境が作られるように支援し いて在宅ケアを行なうCBOであ JVCの活動も、 (以下ポロション)を通じて知識 農村地域に 地域社

村地域では、 陽性者への適切な

援活動や予防啓発活動を行なうに

畑で働きつづはに『わたし8歳 『わたし8歳、

見えるもの

#### 「住民参加型 HIV/エイズ予防啓発及び陽性者支援

JVC とシェア=国際保健協力市民の会が共同で実施しています。 ※この活動は、

開しています。

がりも視野に入れて活動を展 すとともに、地域全体への広 団体と協力できる強みを活か

#### ①予防啓発活動

→劇や資料を配布、HIV/エイズの正しい情報を伝える

#### ②村の住民ボランティアによる在宅ケア

→陽性者や寝たきりの人などを訪問、身の周りの世話をする

#### ③エイズ遺児支援

→食料の配布や、子ども向けキャンプを実施する

#### 4陽性者自身による自助グループ活動の充実

→治療に必要な情報交換やトレーニング、悩みを相談できる 場をつくる

#### ⑤家庭菜園づくり

→バランスの良い食事が免疫機能を維持することなど栄養に関する 理解を深めてもらい、実際に様々な野菜を栽培する方法を伝える

地域で HIV/エイズに関する差別や偏見が減り、 陽性者やエイズ患者がより暮らしやすい環境を目指す



カプリコーン郡 ベンベ郡 ンクンピ地区 リンポポ州

り組みを進めています。地元

域でのHIV/エイズへの取

イントを重点として、村落地

団体として、左記の五つのポ ムベーストケアを現地の協力 している、ポロション・ホー レペレ=ンクンピ地区で活動 ■リンポポ州カプリコーン郡

うち九七・三%がアフリカ人で、 です。人口約五百二十八万人の ド(黒人居住区)が統合された州 ます。それゆえに他の州と比べ の整備状況は他州と比べて悪く 水道や電気などの社会インフラ 潜在能力も高いと思われますが、 の占める割合が最も高い州です。 全国九州の中でアフリカ人人口 より不十分とされています。 て政府のHIV/エイズ対策が 貧困州のひとつに数えられてい 豊かな自然があり農業などの

り、陽性者や患者への適切なケア 自助グループ活動や介護などを通 性者自身が予防啓発活動に参加し、 な意義があります。 また、H-V陽 と治療が増えていくことには大き 識を持つことで、差別や偏見が減 V/エイズについてより正しい知

## 陽性者の生き生きした姿 そのものが啓発となる

催した啓発キャンペーンが○七年 十一月に行なわれました。JVC 者の自助グループのメンバーが主 村落の啓発活動のなかで、陽性

ことも重要だと考えています。 向きに生きる意義を見つけられる して心身ともに健康を維持し、 前 活躍を支援したいと思います。

## これからに向けて

CBOなどによる支援の形は多

的に行なったものです。 備・運営とすべて自分たちで自主 ンバーが中心となって、 V/エイズ研修などに参加したメ の菜園研修や、陽性者向けのHI 企画・進

ルトヘイト時代の旧トランス

南アの最北部に位置し、 リンポポ州について

ール北部と三つのホームラン

囲の人々への啓発になるのではな 彼らの行動そのものが、まさに周 偏見を和らげる効果があります。 になるとともに、 みに心から賞賛を送りたい気持ち いかと、メンバーの勇気と取り組 の人々のエイズに対する恐怖心や る様子を見てもらうことは、 生きと自信を持って明るく活動す してキャンペーンを成功に導きま 劇の披露なども含めて、主催者と も熱心に行ない、当日の運営、啓発 り、招待状を配ったりと事前準 の濃いキャンペーンとなりました。 報やメッセージをきちんと盛り込 自分たちで寄付を募って集め、 助金に頼らず、開催資金をすべて ベントが多い中で、 内容云々よりも食事や出し物のダ えば食事を出すことが慣例です。 した。こうした、陽性者自身が生き んだ、小さいながらもとても内容 ンスだけに関心が集まりがちなイ メンバーは、啓発劇を練習した 南アでは、「キャンペーン」とい 今後もこうした 政府からの補 周囲 情

> なるのを見てきました。しかし、 途絶えることなく続いています。 助グループや保健関係者の努力は VCは沢山の人々がエイズで亡く 数も増えています。この二年半、 り組みは、これからです。陽性者の この国のHーV/エイズへの取

らうこと。ポロションの代表カディ とともに、『ここまで達成できた アカさんはこう言います。 たちで作っていける力をつけても 若者たちに自分たちの未来を自分 励まし、情報を提供し続けること。 次はここまで行こう』と言えるよう 私たちにできることは、諦めずに 

CBOの能力や質が、そこでの活動 善が必要と思われる点もあります。 の教育や、組織的な働き方など、改 く見られますが、そこで働く人たち

の質を左右するためです。

うになることなどがあげられます グし、活動を常に改善していけるよ ステムと連動する形で)モニタリン 活動の動きを(国のモニタリングシ 極的に行なうこと、②活動を計画立 己資金の確保や助成金の申請を積 係の中でもそういったことが見え てて実施できるようになること、③ てきました。 ポロションとの半年間の協力関 政府からの補助金に頼らず、 ①資金の調達に関 自

になりたい。一緒にやってくれるこ

私たちの支えになる\_

# 対策へのコミットメント」とは国際社会の義務としての「エイズ

# 特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会

## 稲場 雅紀



(御茶ノ水書房、共著) など。 ・ディレクター。 著書に ・ディレクター。 著書に ・ディレクター。 著書に ・ガテロ戦争」と現代世界 ・カル年生まれ。○一年より ・カル年生まれ。○一年より

# 「十一月革命」?

〇七年十一月末。世界エイズ・ 「一を前にして、世界中でH-V/エイズに取り組む多くの人々を 戸惑わせる、ある種の<革命>が生 じた。UNAIDS(国連合同エイズ じた。UNAIDS(国連合同エイズ 「村ーV/エイズ最新 「「「サーマの中身を大き 「「大き」の疫学データの中身を大き 「「大き」の変学データの中身を大き 「大き」の変学データの中身を大き

毎年同じ時期に発表されるこの毎年同じ時期に発表されるこの毎年同じであった。日く、世界で日った。日く、世界で日本で毎年、増大し続けている。エイ強で毎年、増大し続けている。エイズによる死者数は三百万人弱。対策は進行し一部の国々では一定の策は進行し一部の国々では一定のでは進展を見ているが、にもかかわらず、全体として状況は悪化している、云々。

の下に発表した自国のHーV陽性府がUNAIDS/WHOの承認同じ年の夏に、インド共和国政

が同時にチャンスでもある」。さらるをえないことは)試練でもある述べた。「(旧来の数値を変更せざ

その後の、同じ理由によるUNA-DS/WHO自体によるデータ変更は、さらに驚くべきものとなった。世界のH-V陽性者人口は、四千万人弱から三千三百万人は、四千万人。さらには、世界のH-V感染の発生は、どういう訳か「九〇年代後半にピークを迎え、後はなだらかに減少している」ということになった。同時に発表されたプレス・リリースで、ピーター・たプレス・リリースで、ピーター・とが、メールを発表が、場が、関いでは、ということになった。同時に発表されたプレス・リリースで、ピーター・との後の、同じ理由によるUN

# 十年とその代償・空白の

「投資の効果」、確かにその通り「投資の効果」、確かにその通りに注がれている資金は二〇〇〇年に注がれている資金は二〇〇〇年を境に急激に膨張し、現在、年間百を境に急激に膨張し、現在、年間百を境に急激に膨張し、現在、年間百を境に急激に膨張し、現在、年間百を境に急激に膨張し、現在、年間百を境に急激に膨張し、現在、年間百を境に急激に膨張し、現在、年間百を境に急激に膨張し、現在、年間百を境にかれている。このでは、実は逆のでは、まは逆のでは、まはが、このことががいかに少なかったか、ということがいかに少なかったか、ということがいかに少なかったか、ということがいかに少なかったか、ということがいかに少なかったか、ということが、

期にはじまっていることに気がつロとアフリカ諸国政府のHIV/歴史をひもといてみると、WH

民営化や廃止に踏み切る以外に方

アフリカ諸国は、公共サービスの

ろが、サハラ以南アフリカでこれ これと軌を一にして、アフリカの 源の乏しい地域におけるHIV 搾り取った。公的資金を喪失した 策によって、アフリカから外貨を いとも簡単にアフリカへの援助を れる心配のなくなった欧米諸国は る。アフリカの資源をソ連に取ら わゆる「援助疲れ」の時期と重な 折しも冷戦終了後の欧米諸国のい を飲み込んでいった。この時期は、 とんどのサハラ以南アフリカ諸国 は、南部アフリカを中心として、ほ らの対策が機能したのは、わずか 対策プログラム」を設置する。とこ エイズの診断基準を定めていた。 諸国の保健官僚を召集し、医療資 カ共和国の首都バンギにアフリ デターが相次いでいた中央アフリ く。WHOは八五年の段階で、クー にウガンダとセネガルだけであっ 主要国は、一斉に保健省に「エイズ うち切り、あまつさえ構造調整政 HIV/エイズの急激な拡大

UNAIDS ウェブサイト http://www.unaids.org/ を参照

UNAIDS "Financial resource requirements for AIDS" を参照。 ※注②

(http://data.unaids.org/pub/Report/2007/20070925\_advocacy\_grne2\_en.pdf)

"Averting HIV/AIDS" (http://www.avert.org/safricastats.htm)、アジア経済研究所 「エイズ政策の転換とアフリカ諸国の現状」を参照。 ※注③

(http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Topics/52.html) アジア経済研究所 「エイズ政策の転換とアフリカ諸国の現状」を参照。 ※注④ (http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Topics/52.html)

(http://www.theglobalfund.org/)。 世界エイズ・結核・マラリア対策基金を参照。 ※注⑤

UNAIDS "Financial resource requirements for AIDS" を参照。 ※注⑥

(http://data.unaids.org/pub/Report/2007/20070925\_advocacy\_grne2\_en.pdf)

※注⑦ 平成20年度予算フレームを参照。

(http://www.mof.go.jp/seifuan20/yosan002.pdf)

由は、アパルトヘイトによって構 クと化した。 最も効率的に媒介するネットワー たとき、このシステムは、HーVを なだけ動員できるシステムを構築 低廉な労働力を必要なときに必要 を繰り返すことによって、 築されたこの国の労務動員システ アフリカ共和国だ。その最大の理 の感染拡大の中心をなしたのが南 した。そこにHIVが侵入してき ムであろう。強制移住と強制収容 こうした中で、 鉱山と工業地帯と白人農場に 南部アフリカで この国

の中で、この国のHーV感染率は、 る。 ことで、 者が感染する。 九〇年代頭には一%程度であった に従事するしかない。 ることによって、 れている。 者たちが性欲を満たす場所は限ら には街道に出てセックス・ワーク 女性たちは、 鉱山などで単身で働く男性労働 地方で男性の労働力を失った そこにもH-Vが侵入す そこにHIVが侵入す 現金を手にするため 彼らが故郷に戻る ほとんどの労働 この悪循環

テムを手放すわけにはいかなかっ 応の地位を占めるために、 主義経済政策の中においてそれ相 席巻するグローバリズムと新自由 しながら維持された。 ムとしてのアパルトヘイトは変質 た。貧富格差は拡大し、経済システ リカ共和国は、 た。 ヘイトは法制度としては解体さ しかし、 冷戦終了後の世界を この労務動員シス 南アフ

られた。

夕は、ただ垂れ流されるにまかせ 戻ったような平均寿命などのデー >感染数、

信じがたいほど上がっ

たHIV

陽性率、

まるで中世に

てるなど贅沢だ 国が、 H I V

急増するHー

/エイズに資金を充 借金まみれの貧困

法はなかった。

睂問

ば、

理性と良心とを授けら

されたのである。 うして、 きないとしたら、 享受している年率五%以上の経済 経費はいくらかかるのか? 以上にのぼるHIV陽性者すべて の文脈から説明しうる。五百万人 が長らく封印され続けたのも、こ な見解の下にHーV/エイズ対策 資は維持・拡大できるのか 成長は維持できるのか? に治療とケアの手を差し伸べたら、 を捻出したとして、この数年間に いかも知れない」などという奇怪 ターボ・ムベキ現政権下にお 「H->はエイズの原因ではな HIV感染の拡大は放置 先進国からの投 維持で 経費

## 普遍的な人権の達成へ 務としての資金拠出 **ഗ**

界基金(世界エイズ・結核・マラリア対策 こにいる。 そして〇八年の今、 〇一年に設立された世 私たちはこ

と拡大した。この十年間で、アパル ものが、二〇〇〇年には二〇% 基金) している。 は 年間資金拠出を二十億ド

界のエイズ対策費は百億ドルに達 ている。冒頭に記述したとおり、世 プログラムも同様の金額を捻出 大をかなりのレベルで担うに至っ リカ諸国におけるエイズ治療の拡 様々な問題をはらみつつも、 (米国大統領エイズ救済緊急計画 ○三年に開始されたPEPFAR (約二千二百億円) に拡大している。 世界銀行の多国間エイズ は ており、 代にアフリカを、 よって、この宣言の精神を裏切り 今日、私たちは、 実問題として、 エイズの拡大を放置したことに て行動しなければならない」と定 るのである ならない。人間の生命の価値は、現 続けたことを思い起こさなければ 互いに同胞の精神をもっ 世界人権宣言六十年の 極端に異なって 国際社会が九〇年

そしてHIV

まだ必要額の半分に過ぎない れに照らせば、 億~三兆三千億円)と算出している。こ 間二百二十~三百億ドル(約二兆四千 クセスの実現」に必要な資金を年 イズ予防・ケア・治療への普遍的ア る「二〇一〇年までのH-V これは多いのか、 UNA-DSは、 現在の対策費はい 少ないのか。 国際目標であ 〇八年度の Ľ

がわれているのである。 社会保障関係費は二〇兆円を超え の資金が、<日本国民だけに>あて 日本の一般会計予算に計上された 見なければならない。 金をつぎ込んでいるかについても ·社会保障や医療にどれだけの資 私たちは、先進国の国民が自ら 上述の対策必要額の十倍以上

厳と権利とについて平等である ながらにして自由であり、 権宣言は、 九四八年に採択された世界人 「すべての人間は、 かつ、尊 、 生れ

命題なのである。

務を果たさせる上で不可欠な至上

ち取ることは、

国際社会にその

く える私たち日本の市民社会にとっ G8北海道・洞爺湖サミットを迎 ればならない義務である。 問題などではない。それは、普遍的 クセスを実現するための資金拠出 上塗りした国際社会が果たさな に加えて、 の義務である。数百年にわたる奴 宣言」で掲げた国際社会にとって な人権と人間の平等を「世界人権 は、それぞれの国の「自助努力」 ズの予防・ケア・治療への普遍的ア イズ拡大への不作為という恥辱を 隷貿易と植民地支配の恥辱の歴史 実現」へのコミットメントを勝 まとめを急ごう。H-V 、国際社会から「普遍的アクセス 第四回アフリカ開発会議と 九〇年代にHIV/エ そして ノエイ の

#### リンポポの人々に聞きました。「JVCって、どう?」

リンポポ州において、JVCは様々な人々と共に活動をしています。 その中からおふたりに、自分の仕事と、JVCとの関わりについて お話をうかがいました。

ますか? 【質問・JVCとの協力をどう思い JVCが来て、活動の進め方や

思います。他の団体ではまだまだ りしっかりできるようになったと 府の派遣してくれる会計専門家に ど前から、外部監査に出す前に、政 思います。ポロションでは二年ほ かりした会計と透明性の維持だと 地域の団体に必要なことは、しっ の給食センターを担当しています。 あるので、地域全体でよくなるこ ようになり、会計についてはかな 会計書類をチェックしてもらえる 会計について改善が必要な部分が とが必要だと思います 【質問・団体での仕事は?】 会計、青少年活動、エイズ遺児へ

種・保存の方法など教えてもらい、

もできます。菜園づくりは本当に てくれるので、殺虫剤などを使わ て植えれば、虫に弱い野菜を守っ の中の栄養素を取り合わず育てら 混ぜて植えることで、お互いに十 きています。色々な種類の野菜を 今では様々な種類の野菜が収穫で 楽しんでやっています。 きは給食センターに寄付すること ずにすみます。たくさん採れたと れます。虫除けになる野菜を混ぜ

# のおかげでね。 菜園づくりが楽し



ヤクソンさん

ポロション・ホームベース 会計、青少年活動、 給食センター担当

学肥料などを使わずに有機栽培す 勉強になっています。個人的には、 る方法や、畑のデザイン、種の採 して、家庭菜園を作っています。化 JVCの菜園トレーニングに参加 書類作りなど、色々と刺激を受け の数は増加傾向にあります。

す。検査をする前に、HIV/エイ のカウンセリングを行なっていま 【質問・レイカウンセラーとは?】 クリニックで、H-Vの検査前

渉する人たちがいるため、 があり、そこでお金目当てに性交 りがたいです。この地域には鉱山 に行くように勧めてくれるのであ も辛い時間ですが、検査を受けた なければならないことです。とて て陽性だった人にそのことを伝え うことなども話します。特に、母子 サポートしていったらいいかとい 者の家族には、どのように本人を 避妊などについて話します。陽性 人たちは、周りの人たちにも検査 しく説明します。 感染予防薬や母乳育児について詳 スや性感染症、病気の進行の段階 仕事の中で難しいのは、 検査し

> う思いますか?】 【質問・JVCとの協力についてど

備や招待状の準備など色々と協力 たキャンペーン (三ページ参照)の てくれています。十一月に企画 声をかけてくれることで、グル ミーティングでの情報共有や皆に を果たしてくれています。月例の ループの支援でとても大切な役割 してくれて助かりました。 プの雰囲気を明るくし、勇気づけ ときは、準備のときから備品の JVCは、特に陽性者の自助グ

ローチが必要だと感じています。 プ、啓発活動、とくに学校へのアプ なければと思います。そのために れから村の中でもっと活動を広め てくれる人は少ないのですが、こ るのが嫌で自助グループに参加し 陽性であることが周りに知られ HIVに関するワークショッ



#### ャロラインさん

ムパシェレ・クリニック HIV レイカウンセラー

# 目助グループを勇気づけてくれます。

#### JVC南アフリカ現地代表 津山直子 報告会

昨年11月末に帰国した津山直子。例年実施する報告会ですが、今回は「いろんな視点から南アフリカについて伝えよう」ということで、「南アフリカ連続講座」と称して複数回の対談形式で実施しました。いずれも70名を超える方にお越しいただき、盛況な会となりました。(南アフリカ事業担当 渡辺 直子)

#### 【2】ピースボート勉強会

12月1日

#### 「虹の国 南アフリカへの道のり」

すことはできる」という姿勢を強調しました。すことはできる」という姿勢を強調しました。かり、「忘れることはできないけれど許可、などリーダーの役割、人種融和を目指す「虹っ氏などリーダーの役割、人種融和を目指す「虹っ氏などリーダーの役割、人種融和を目指す「虹ったとびとでした。津山は、アパルトへイト後の融きる内容でした。津山は、アパルトへイト後の融きる内容でした。津山は、アパルトへイト後の融きる内容でした。

#### 「南アフリカ座談会

【1】南アフリカでの生活や活動

~アフリカの大地に生きる二人の女性が語る~」

アで反アパルトヘイト運動の中心を担っていたア形となりました。時期は違いますが、二人とも南

ノリカ民族会議 (ANC) の日本支部で働いてい

の平林さんと津山に、林さんに話を聞いてもらう会形式の報告会でした。ともに南ア在住十年以上

**働者によるストがあったことが伝えられました。** 「違い」を理解しあい、楽しもうとするとこり力のゆったりしたテンポが自分に合う」、津山から「貧富の格差を象徴するよは「「違い」を理解しあい、楽しもうとするとこは「『違い』を理解しあい、楽しもうとするとこは、「南アのいいところ」は、平林さんは「アフリカのゆったりしたテンポが自分に合う」、津山た。「南アのいいところ」は、平林さんは「アフトをの後半に会場から様々な質問をいただきました経緯がありました。

#### 【**4】「手を差し伸べる」ということ** (12月 15日)

中原大弐さんが対談のお相手でした。中原さん会としての位置づけで、ピースボート共同代表の

ボートの南ア寄港時のソウェトツアーをコーディ共催での報告会でした。津山が今年二月にピース

をコーディネートしているNGOピースボートと

この日は、地球の各地を訪れる国際交流の船旅

ネートすることになり、その参加者のための勉強

#### 「アフリカの子どもたち」 (in名古屋)

G0は自己満足では、という葛藤があるが」とい の人や障害を持つ人と、貧しいから/かわいそう だから関わるのか」、「慈善と偽善のはざまで、N 持つ作家の**堀田あけみ**さんです。 「私たちは南ア 活動を続けられるのだなと改めて実感しました。 幸せを感じ、自分が彼らと関わりたいと思うから 対象を好きになれるかどうかが分かれ目」で、 らかに違うとわかる。入り口は偽善でもいいが、 る人と、かわいそうだから助けてくれる人では明 とが多い。だけど、それが好きだから助けてくれ う質問への堀田さんの答えが印象に残りました。 した。この日のお相手は、障害のあるお子さんを 「手を差し伸べることは、高尚な志を持った人が .障害児を)幸せにしてあげることとは違う」。 私たちも、現場での「人との出会い」によって 津山の出身地である名古屋での報告会となりま 「障害児を持っていると、他人に助けられるこ

#### 【3】現代に南アフリカを見る意義

(12日4日)

アフリカ日本協議会の林達雄さんと三人での座談

アジア・アフリカと共に歩む会の平林薫さん

#### 「虹の国 南アフリカはどこへ行く?」

リゼーションの負の事例を提供する南アには関わ い面の両方の視点が得られてよかった。グローバ り直視する必要があると話しました。 れ、津山は民主後のひずみや課題についてもやは 困にあえいでいます。JVCの南アでの活動の意 によって民主化が成し遂げられた意義が強調さ れに対する抵抗運動とその思想、民主憲法の基盤 かし、貧富の格差は世界一激しく、多くの人が貧 に多岐にわたりました。勝俣先生からは「対話」 になる「自由憲章」、アパルトヘイトと国際社会 義を考えるために、津山の知己でもある明治学院 入学国際学部教授の**勝俣誠**先生を招きました。 、日本との関わり、民主化後の課題と希望など実 アフリカの中では経済力のある南アフリカ。し 報告会後、ある参加者から「南アの良い面 話題は、アパルトヘイト下での法律と弾圧、そ

#### 報告会を終えて…

『報告会は、私にとっても学びの場です。「南アを通して日本社会や地域がみえる。そこから国際社会もみえてくる」という相互関係からの学び合いを大事にしたいと思います。今回の帰国でも、多くの方からの理解と支援を実感でき、活力をいただきました。ありがとうございました』(津山)

る意義がある」との感想をいただきました。



#### ラオスにおける王子製紙株式会社による植林について

中部のカムアン県にて九三年から

JVCは、

東南アジアのラオス

#### 谷山 博史 代表理事 ラオス事業担当 川合 千穂

始まった、 の視点からは少し違った様相を呈 識の高まりから環境と社会貢献が との対話」 うあるべきなのか。村人の声から 来事に、ラオスの活動地で遭遇し 会貢献について考えさせられる出 企業の連携、 よく結び付けられるが、 してくる。今回JVCは、NGOと 植林」という図式は、 NGOと企業とのあり方はど について報告する。 一年以上にわたる「企業 および環境保全と社 現地の人々 「環境保全

## 森に支えられ オスの村人の生活

ており、 いたが、 としてラオス政府に正式に登録し、 そこでJVCは、村の森を共有林 策がないことが問題となっていた。 されるような際に、村人側に対抗 外部の企業などによって森が伐採 いる」という状況だった。そして、 ラオスの村人が森から食べ物、 生活改善普及員の育成を行なって 森林保全の活動を行なっている。 元々は、 家の建材など多くのものを得 その中で見えてきたのは、 「森が生活の基盤を支えて 八九年から農村部での 薬 Ţ 12

林保全の活動として推進してきた。

気候変動などに対する最近の意

# 王子製紙による植林事業

増加、 の問題が報告されていた。 る。これに関しては、農民の借金の クト」によって、九三年から大規模 本企業の王子製紙株式会社 金の植林以外への転用など、 な植林事業が導入された経緯があ 行 王子製紙) ラオスでは、 〇五年一月、カムアン県内で、 主導による「産業植林プロジェ 融資の大半が回収不能、融資 が植林事業を開始した。 ADB (アジア開発銀 (以 下 多く  $\Box$ 

لح を徹底するという。 クタールの植林計画を表明、 三年までにユーカリなどの五万へ Plantation Forest Company Limited) J の合弁事業「LPFL 部を担っていた植林合弁企業の株 環境と地元コミュニティへの配慮 を王子製紙が取得、 その後、このプロジェクトの 植林事業を開始した。二〇 ラオス政府と (Oji Lao 自然

### 問 度重なる村人からの 問題提起

初頭、 らうために会議を行なった際に、 けだった。 一日本の企業がラオスの木を切って . 関する話を聞いたのは、 JVCが最初にLPFLの植林 郡や県行政に広く認知しても ある行政官の発言がきっか 森林を巡る問題につい 〇六年

焼畑をしてなんとか米を得ていた。

LPFLが要求してきたのは、

そ

米を植えても収穫できず、

高台に

村人が森を利用する権利を得られ

るようになる「土地森林委譲」を森

いるが、 言われた。今回のケースでは、 なうという手順を取っていた。 に紙の原料とするための植林を行 FLはまず森を取得して伐採、 放置していていいのか」と L 次

四月、 の改善をお願いした。また、日本の て改善を約束してもらった。 現地の状況について説明し、 王子製紙本社に対しても、ラオス FLと直接話し合いを持ち、 えていない状況がわかった。 ており、その声に耳を貸してもら が取得されて植林事業が行なわれ たところ、 その後、 JVCはラオス現地のLP 村人の望まない形で森

間は水が引かないために、 取ろうとしている。 まされていた。 建設されて以降、 だった。この村は、村を流れる川の かしてくれないか」 あげるような土地は無い。 うすでに水田もダメになっており、 たちの村に何回もやってきて森を せぬ要望が出た。「LPFLが自分 村を訪問した際に、 ところが、〇七年一月、 流にADB融資によってダムが 雨季の間の一ヵ月 深刻な洪水に悩 自分たちはも 村人から予期 という相談 別のある なんと 水田で

村で聞き取りを行なっ が実施している土地森林委譲では、 的に守ってきた保護林と利用林 森林を保護林、荒廃林、 に区分する。 部にあたる地域だった。

利用林など

同年 事態 改め 対して、片方の村との話し合い この村に対する圧力は収まった。 と話し合いを行なった。その結果 のみ可能」と規定されている。 林は「荒廃地および空き地、裸地で だ。そしてラオスの森林法では、 が含まれていることがわかったの のおかげで対象地域に保護林など 地森林委譲は実施されており、 みでその地域に対する植林が行な は行なわれることとなった。 われた事例もあった。 しかし、結局はすぐ隣の村で植林 一村間での境界が不明確な地域に JVCラオスはすぐにLPF-この村でもすでに土

うために、 の後も(他の村からも)相次いで苦 情が聞こえてくる。JVCは、 示してくれるにもかかわらず、 に要望書を提出することにした。 した状況にきちんと対応してもら 話し合いの際には対処の意向 日本の王子製紙社長宛 、こう そ

## 要望書提出とその後

望書を作成し、 問題を整理、 資源戦略本部他の方々に直接手渡 た。 年の九月、 また、LPFLに対して他の その改善を求める要 王子製紙本社にて 現地で起きている

の高台にある森だった。

そして、その土地は村人が伝

統

また、 ADB 産業植林の問題に関しては、メコンウォッチ HPの「アジア開発銀行の融資がラオスの

V V J

そ

植

- ・地域環境や住民の生活を脅かしてまで植林を推進する意図 はなく、指摘された問題には真摯に対応する。
- ·JVC 指摘の各問題点に対する回答:
- ①植林地の取得はラオス政府の法令に従っている。
- ②聞き取りは丁寧に実施しているが、女性を始めとする少 数意見も含めて汲み取れるシステムを検討する。
- ③両村の境界が不明確なことの認識がなかった。候補地取 得プロセスを改善し、近隣の村人も参加してもらう。
- ④社会環境ガイドラインを履行すべく、村人との対話を進
- ⑤生活環境を配慮しており、植林、伐採後のチップ加工や 再植林の過程で様々な雇用機会がある。
- ・今後の改善策(LPFL における対策):
  - ・候補地取得プロセス→CSR推進部(仮)が担当する。
  - · CSR の強化→社会環境貢献部のチェック機能を強化し て村人との対話に努める。
  - ・環境配慮をすべての作業者に遵守させる仕組みを導入。
- ・ 上記各取り組みについて、王子製紙の企業行動報告書での 公表を検討する。

#### 要望書(要旨)

#### 現地における問題点

①「植林地」の問題

村人が伝統的に守ってきた保護林など荒廃地以外の森林地を 使用していること。

②土地取得プロセスの問題

土地提供を拒否した村に度重なる圧力を与え、村人との十分 な合意がないまま土地を取得しようとしていること。

③境界線問題への対処の問題

周辺村への調査を行なわずに一村からの合意のみで事業を実 施し、周辺村の土地を侵害していること。

④林産物喪失、地域紛争の問題

伐採により村にとって貴重な資源である林産物が減少してい ること、この影響で林産資源を巡る諍いが増加していること。

⑤農地、家の建材の喪失、補償の問題

農地不足を招いており、喪失した土地に対する直接的な補償 もなされていないこと。

※上記の諸問題が事業上における環境・社会への配慮システム 自体に問題があることに起因する旨の指摘とともに、改善に向 けての対応の対外的公表、回答を書面にて行なうことを要望。

#### 回答書へのコメント(要旨) [王子← JVC]

- ・社会環境面での配慮の具体策が不透明であること。
- ・王子製紙側におけるチェック体制の不備。
- ・過去の事例の原因究明と対応策が必要なこと。
- ・社会環境ガイドラインを住民側に提示した上での 協議が必要であること。

#### 関連する主な出来事

(※Jラ=JVCラオス、J東=JVC東京)

LPFL、植林事業開始 05年1月

06年初頭 Jラ、村人からLPFLの植林事

業に関する話を聞く

4月 Jラ、LPFL 訪問

5月 J東、王子製紙本社訪問

07年1月 Jラ、別の村で再びLPFLに関 する話を聞く

7月

// J東、王子製紙本社訪問

9月10日

事態の改善を約束

10月25日 J東、王子製紙に対し**回答書に** 

対するコメントを提出

感じたものの、 に不十分さを覚えたため、 慮の責任を果たそうとする姿勢を その改善策の内容 J

4

と共に、 単に送付するだけでなく、 回答は、 調査を踏まえた詳細な説明をする けるアプローチなどに関して現地 担当者がJVC東京事務所を訪 上に誠実なものだった。 合弁事業の内容や現地にお 今後必要な対応を取るこ 私たちが予想していた以 回答書を 直接の ね

しかし、全体として社会・環境配 用するなど、徐々に対応を進 いる。コンサートの件でも、結果と では国内間伐材を使用した紙を採 いて調べ、最新の年次報告・計画書 その製造過程など改めて「紙」につ VC自身が「紙の消費者」として けてきた。今回のことを受けて、 ログラム冊子の用紙提供を長年受 開催に際して、 王子製紙 からプ

うかということは、

JVCのみ

企業と対話 から発信し、 の状況をそこに暮らす人々の視点

その改善を目指 連携していけるかど

日本にいては見えづらい

現

題と言えるのではないだろうか。 らずNGOに与えられた今後の とを約束した。

資を行なっていたことから、 らの企業にも要望書を同時に送付 この要望に対する王子製紙側の それ 子製紙側に返している。 十数企業が「社会貢献」としての投

は改めて回答書へのコメントを王

して〇七年度は王子製紙からの

した。

NGO側でもある

Cにとって改めて企業との連携の 今回の企業との 「対話」 は

あり方を考える機会となった。

変動、

、環境、

、植林、

、といっ

ぶようになった。 取引先なども含めて、

そしてまた、 社会貢献、

気候

広範囲に及

実は、

JVCは年末のコンサー

連の出来事の中には介在している。

た様々なキーワードも、

今回の

こうした大きな流れを俯瞰しつつ

援提供を辞退した。 企業活動のグローバル化!

その社会的責任の 節囲は、 商 品

材料調達や生産過程での影響

// Jラ、LPFL 訪問

Jラ、LPFL 訪問

J東、王子製紙に対し改善を求

める要望書を提出 (LPFL投資

元にも送付)

王子製紙、J東訪問。**回答書の** 10月10日

持参と共に今後の対応を説明、

#### スタッフのひとりごと

#### 週末の訪問者

JVCラオス 森林担当 尾崎 由嘉

ラオスでの生活が始まって 10ヵ 月。一息つける週末の午後に、家の庭 先で風にあたりながらウクレレを弾 く練習を始めた。この下手な音を聞 きつけて、今なら私が暇だとわかっ てか、近所の中学生の女の子仲良し3 人組が「何やっているのー?」と門を 開けて家に入ってくる。平日は「おは よう。どこ行くの?」と通りすがりに 言葉を交わすだけだが、外国人の私 に興味津々のようで、時々ひょっこ りやって来る週末の訪問者たちだ。

3人は、自分の方が上手くできる、 と代わるがわるにウクレレを抱え、 適当に音を奏でて歌い、 はしゃぎだす。次の拍子 には、私のままならぬラ

オス語を笑い、発音練習に転じる。 今 度は「日本語では何と言うの?」と尋 ねられ、漢字と共に教えると3人揃っ て驚嘆の眼。そのうち料理の話に なって、「お腹すいたね一」と材料を 家から持って来てパパイヤサラダ作 りが手際よく始まる。そして「食べる よー」とテレビの前に揃って座り、 あっという間に皆で平らげ、テレビ に見入って共に笑い転げる。自分の 家のように寛いだ後、台所を元より



イラスト/かじの 倫子

もきれいに片付けていき、「お母さん が呼んでるから帰るね一」と夕日の 中を去っていく。

台風が来たような落ち着かない数 時間だが、世代が違う彼女たちと過 ごす一時は新鮮で発見もある。東京 の生活では、こんな風に違う世代の 子たちと触れ合う場は皆無だった。 忘れかけていた中学時代の友人との 日々も、この訪問者たちは思い出さ せてくれる。

#### 『パレスチナはどうなるのか』

土井敏邦編 岩波書店 480円+税

るのか。

七月二十八日、私たちは緊急シ

中東・国際情勢にどういう影響を

での入門編として適しています。 で起きていることを理解するうえ とまっていて、現在、パレスチナ 内外の動きと共にコンパクトにま 内部の問題点を七〇年代頃からの 井氏の分析は、現在のパレスチナ の議論の二部構成です。前半の土

**及ぼすのか。私たちには何ができ** 

しているのか。これからパレスチ のなかで、どのような思いで生活 レスチナの人々は、どういう状況 なことが起きてしまったのか。パ

ナはどうなっていくのか。これが



されました。

パレスチナ事業担当

藤屋リカ

及びシンポジウムの収益

寄付

ガザ地区への支援として寄付

なお、このブックレットの印

地からの声を交え、 わってきた専門家、ジャーナリス 五十人)。長くパレスチナと関 した(主催・JVC、土井敏邦 チナはどうなるのか」を開催しま ンポジウム「内戦と紛争?パレス レスチナ記録の会、参加者・約百 土井氏の編集でブックレット NGOスタッフが集まり、現 報告・議論を

げかけられているのでしょう。 『机上の「和平」論ではなく、

う訴えかけている。』(あとがきよ 私たちにも、このメッセージは投 チナの現状は国際社会に改めてそ 場の民衆の目線に立った真の「和 進めていくことができます ジャーナリストによる議論を読み 心を寄せながら、日本人の学者、 容を深めています。現地の人々に によるシンポジウムでの議論の り)国際社会の一員である日本の 〇代表のインタビューが、専門家 後半では、ガザ地区の地元NG を――この混沌としたパレス 現

みるよむきく

態が発生しました。

なぜこのよう

制裁や封鎖は強化されるという事

情勢分析、

後半はシンポジウムで

井氏によるこれまでのパレスチナ

またイスラエルによる経済

地区では、

〇七年六月、

内部での対立や抗争の パレスチナ ・ガザ にまとめました。 このブックレット İξ

10

#### JVCプロジェクト一覧

#### JVCは、現在10の国/地域で活動しています。



#### カンボジア

#### ■生態系に配慮した農業に よる生計改善(CLEAN)

07年からシェムリアップ 県35村で活動。幼苗―本植 え(SRI)と伝統的な方法によ



■ SRI の実践で収穫が増えた農家。

る稲作の比較を農家が行ない、SRIは収量が約2倍に増えた。貯 蓄グループと家庭栄養菜園の研修を実施。

#### ■持続的農業と農村開発(SARD)

安全な水や食糧確保を目指し、94年からカンダール県50村 で活動。5小学校の環境教育で、たい肥作り、果樹や野菜を植え る体験学習を行なった。

#### ■資料・情報センター(TRC)

持続的農業、農村開発、環境に関する資料を94年から提供。 TRCは古い定期刊行物を整理。6CRC(コミュニティ資料センター) 図書運営委員会と CRC を新設したい農民ネットワークのリー ダーを招き、12月にCRC運営能力強化ワークショップを実施。

#### ■技術学校

85年に政府と合意し、プノンペンで職業訓練校と付設整備工 場を開始。移転先の建設工事が完成に近づき、建設状況の確認 を12月から関係者で行ない、問題点を指摘し改善が見られた。

#### ■アドボカシー/調査提言/ネットワーク活動

大使館/NGO/JICA/JBIC定期協議会にパネラーとして参加、 人権 / グッドガバナンス会を共催。(以上米倉)



#### ■農村派遣研修

国際協力や自然環境保護に 関心のある人を対象に、タイ の農村に滞在し、「開発」、 「NGOの役割」、「生きる」こ とについて村人の声に耳を傾

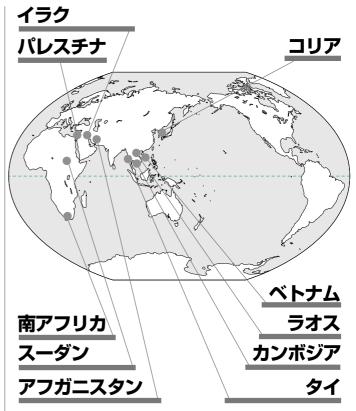


■インターンとスタディツアーの公

けながら真剣に考え・学ぶ研修プログラムを企画している。08 年5月から1年間のプログラムの募集を12月に開始した。

#### ■スタディーツアー

08年3月15日~23日の日程で、JVCが活動してきた東 北タイへのスタディツアーを企画。有機野菜を販売する朝市を 通して地域自立を目指す村人たちを訪問する他、ホームステイ や農業体験も予定。村人たちとの交流を通じて、参加者が自分 の暮らしを見つめ直す機会になることを目指す。(以上下田)





#### ラオス

#### ■森林保全

生活の源である森を守り、 村の権利を確保する活動を実 施。近隣村との境界線問題が パー郡ソーク村では、解決の



長年解決されずにいるブラ **■**共有林で減少している非林産物に ついて話し合い、森林調査を実施。

ための協議の場を持った。また、10月に村内の森林ボランティ アが中心となり、減少傾向にある村の林産物(家やフェンス用 に使う樹木等)の調査を2村で実施した。引き続き、持続的に 森林資源を利用する話し合いを行なっている。タケーク郡の村 では、セメント工場の稼動が始まり、この影響で水汚染や土地 問題が起きているので専門機関に調査を呼びかけている。

#### ■複合農業・生活改善

十分な食料確保のため、稲作技術改善として幼苗一本植え (SRI) を実施している。11村で雨季作の試験栽培を行ない、収 穫高を把握した。乾季作で田植えが始まっており、4村でSRIを 実施している。内、新規1村にて研修を実施。米不足を補うコメ 銀行の活動では、洪水の影響により2村にて利子を下げて米の 返却が行なわれている。その他、果樹栽培の接木を行なった苗 木の移植や、貧困層対策として家庭菜園を実施。(以上尾崎)



#### イラク

#### ■ガン・白血病医療支援

不足している医薬品をJIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)との連携で提供している。引き続きバグダッド、バスラ、モスルの4つ



■ 12月にファルージャで支援食 料が配布された。

の病院に抗ガン剤や抗生物質などの医薬品を空路で搬送したり、イラク国内で調達した。

#### ■国内避難民支援

治安の悪化で約230万人の人々が国内で避難生活を送っているが、食や医療などにアクセスできない避難民が多い。JVCは現地団体と協力し、特に困難な状況にある家族を対象に、米6キロと豆3キロをセットで提供している。10月にファルージャとバグダッドで配布、12月にはファルージャにて約690家族に対して再度実施した。タンパク源が不足している状況の中、豆類の支援は健康を維持するために特に役立つとの報告があった。

#### ■イラク難民健康プログラム

ヨルダンのカリタスクリニックがイラク人コミュニティを対象に行なう健康意識プログラムを支援した。HIV/エイズの啓発などが5ヵ所で行なわれた。(以上谷山)

#### ベトナム

#### ■農村開発

07年度より第2フェーズ を実施しているこのプロジェ クトでは、村人が傾斜地の土 壌流出を防止しながら、食料 を安定的に確保できるように



■「野菜を大事に育てたい」と語る 家庭菜園の実践農家。

なることを目指している。その一環として、傾斜地の利用改善及び冬季の野菜と家畜の飼料不足の改善に取り組んでいる。改善を希望する65世帯を訪問し、植えている作物の種類、水源の確保、抱えている問題などについて各世帯で確認を行ない、改善策を考えるための調査を行なった。この結果を元に07年12月から32世帯が家庭菜園の改善に取り組み、08年3月に傾斜地利用の改善に33世帯が取り組む予定。

#### ■ネットワーク

07年12月6日にベトナム支援国会合が開催され、国際NGO が協同で作成したメッセージが提出された。エイズや気候変動 といった問題に支援が集中する傾向があり、農業分野への関心 が薄くなっている。そのため、引き続きワーキング・グループ での会合などを通じて小規模農家の現状を発信すると共に農業 分野のワークショップなどに参加する。(以上伊能)

#### スーダン

#### ■車両整備を通じた難民 帰還支援

現在、国連難民高等弁務官 事務所(UNHCR)及び南部 スーダン救援復興委員会(南 部スーダン政府機関)の車両



■実習でエンジンの構造を学ぶ研修 生。

整備・修理を行なっている。加えて、国際NGOをはじめとする一般顧客も増えており、合計で月平均50~60台が整備工場に入っている。

12月に日本から講師として浜口龍太氏を招き、JICAならびに南部スーダン政府運輸省と連携して「安全運転講習」を実施した。政府や警察、国際NGOの運転手またはその統括担当者40名余が、車両の基本構造と機能、安全運行のための運転技術と点検作業などを講義と実習で学んだ。スーダン初のこの講習は、予想以上の反響が得られた。

一方、元難民の若者を対象に行なっている整備技術研修では、12月より計15名の研修生を2クラスに再編した。車両専門家の坂本と井谷が交代で授業、実習を担当。本年12月の研修修了を全員で迎えることを目指している。(今井)

#### 南アフリカ

#### ■環境保全型農業 (東ケープ州)

安定した食料生産と農村地域の復興を目指し、環境保全型農業の研修と普及を実施している。カラ地区で環境保全



■エイズ遺児に届ける野菜を収穫する。

型農業の実践に取り組む篤農家を対象に、他の農民に教えていく「トレーナー」としての資質を向上させるTOT(トレーナーのためのトレーニング)を行なった。また、そのトレーニングで使うハンドブックを英語版と現地語であるコサ語版を作成した。TOT参加者は、近隣の4家族の農業実践を助け、その成果を事後研修でモニタリングしていく。(津山)

#### ■ HIV/エイズ(リンポポ州)

感染予防、在宅介護、HIV 陽性者およびエイズで親を亡くした遺児への支援を実施。青少年向けのプログラムとして、HIV/エイズ研修キャンプを1泊2日で行なった。これは、青少年を対象としたHIV/エイズの予防啓発を行う「Love Life」とHIVについての研修を行なう「TAC」の2つの現地NGOの協力を得て実施した。08年度にはLove Lifeとのプログラムを本格的を導入予定。また、訪問介護の対象者で食料の確保ができない13世帯に、緊急支援として食料配給を実施した。(水寄、津山)

#### パレスチナ

#### ■幼稚園児栄養改善支援

ガザの幼稚園児約550人 への栄養改善支援を実施して いる。西岸ヘブロン産の牛乳 と西岸ラマッラー産のビス ケットを配布中。聴覚障害の 園児の早期発見の研修を開始。(小林)



■保健指導員による身長測定の後、 健診を待つ女の子たち。

#### ■巡回診療支援

エルサレムの医療NGOによる巡回診療・健康教育を支援。 医 師による健康診断や応急処置講習、保健指導員による健康教育 をエルサレムの壁の両側の学校やコミュニティーセンターで実 施。ベドウィン村での診療も行なった。(小林・福田)

#### ■子どもの文化・教育支援

ベツレヘムの難民キャンプであるハンダラ文化センターを支 援中。(小林)

#### ■収入創出支援

上記センターの女性グループの刺繍プロジェクトを支援、新 デザインや新しい生地を使った製品の試作を行なう。平和念珠 づくりはメンバーを女性3名に拡大し、トレーニングを開始。

(福田)

#### ■アドボカシー

現地代表の小林が執行委員を務める国際開発機関共同体 (AIDA) から、11月27日ガザへの燃料制限開始に伴い声明文 を発信。(小林)

#### ■女性と子どもの健康改 善のための地域保健事業

冬場になり呼吸器系の患者 が増え、毎日100名を越える 患者がJVC支援の診療所に



■研修を受ける小学校の教師たち。

来ている。また、ゴレーク地域で診療所から遠い地域住民に関 して、巡回診療を実施中。また毎月ワクチン接種キャンペーン、 CHW(村の保健師)のキット配布・ミーティング、伝統産婆へ の訪問を実施した。また、来年度実施予定のサブセンター(簡易 診療所) 設置に関して、ナンガルハール県保健局とJVCの間で 今年4月開始の方向で協議を行なった。

#### ■教育支援

昨年JVCは郡部では初めて、シェワ郡の男子校と女子校で1 ~3学年を担当している教師を対象に教員トレーニングを実施 した。08年1月から校長や教頭向けのコースも新たに設けて同 事業を実施、現在60名を超える教員がトレーニングに参加中。

#### ■アドボカシー

12月、JVCをはじめとする日本アフガンNGOネットワーク 6団体の有志が、アフガニスタン支援は軍事支援ではなく、日本 の平和的アプローチに根付いたものにすべきという内容の要望 書を自民党始めとする各党に提出し、超党派議員との勉強会、公 明党、民主党の外交部会の国会議員と意見交換会を持った。ま た、カブールにおける軍民関係に関する会議に参加し、PRTの 問題点を指摘した。(以上長谷部)



#### 調査研究・政策提言

#### ■ ODA 有識者会議

12月7日に「国際協力に関する有識者会議」中間報告に関す る市民社会との意見交換会が開催され、JVC の高橋が ODA 改 革ネットワークと協力して提言書を作成し、意見を表明した(提 言書は、ODA改革ネットワーク・東京のHP(http:// odanet.npgo.jp/)に掲載されている)。

#### ■人道支援の今を問うシンポジウム

12月9日に〈NGOと社会〉シリーズ公開シンポジウムの第 2弾として「人道支援の今と NGO のこれから ~軍と人道支援 の接近によってもたらされる問題~ | と題したシンポジウムを 開催した。JVCからはファシリテーターとして高橋が、アフガ ニスタンの現場報告として長谷部が参加した。(以上高橋)



#### コリア

#### ■『南北コリアと日本のと もだち展』(子ども絵画交 流)

07年最後の『南北コリアと 日本のともだち展』国内巡回 ■料理会で先生の手元に注目する 展は、12月初旬に愛媛県松山



子どもたち。

市で開催された。会場となった愛媛県美術館県民ギャラリーに は、韓国・北朝鮮の子どもたちによる作品のほか、地元・松山市 内の小学校および四国朝鮮初中級学校からの作品が展示された。

東京では、これまで絵画交流に参加してきた子どもたちが集 う『ともだち展のつづきの会』が、ボランティアチームの企画に よって行なわれた。今回は、講師を招いて実際に韓国料理を作 る料理会で、親子15名が参加した。『ともだち展』で出会った 日本人と在日コリアンの子どもたちが、調理を通してさらに親 交を深めた。また、朝鮮半島で日常的に食べられている料理が 生まれた背景を話し合い、食の側面から日韓の歴史的なつなが りについて学ぶ貴重な機会ともなった。(寺西)

## 国際有機農業映画祭 2007、

盛況でした。

農業ジャーナリスト、 JVC 理事、 国際有機農業映画祭実行委員会代表

#### 大野 和興

## 国内ひろば

JVC network

を代表してお礼申し上げます。 裡に終わりました。実行委員会 人々の食の基盤が奪われていま と農村は大きな打撃を受け バリズムの中で、世界中の農民 作り、行なったものです。グロー に取り組む有志が実行委員会を 域づくりの国際協力や環境問題 の安全、遺伝子組み換え問題、地 会場が満員になる盛況で、成功 国際有機農業映画祭二〇〇七は この映画祭は、有機農業や食 JVCにも協賛いただいて○

ALLES.

した。 開催されたこの映画祭の趣旨で おうというのが、日本で初めて であるということを知ってもら が議員立法で成立しました。 ズムに対抗する「もうひとつ」の どう打開するか、有機農業の中 にその回答があり、グローバリ 人々の暮らしを作っていく道筋 映画祭は東京・御茶ノ水の明 農業と農村の世界的な危機を

り越えるCSA(地域サポート農 負った『危険なオレンジ』、フィ 力の家族農業の破産とそれを乗 者の農民になる戦いを描いた "死の季節よ、さらば"、アメリ )ピン・ネグロス島の農業労働 映画は日本の作品ばかりでな タイの開発と農薬汚染を

係者の地道な運動が実を結び す。折から日本では、有機農業関

〇六年十二月に有機農業推進法

来場者との意見交換会も持ちま

業や自然農業を実践する農民と

参加ください

映画など十四本を上映、

有機農

フィルム、農薬汚染を告発する や自然の多様性を取り上げた 治大学大教室を借り、有機農業

> 季を描いた大作『自然農―川口 由一の世界」、土の中の世界を顕 者である川口由一さんの農の四 上映作品では、 自然農の実践

> > 業)の試みを描いたドラマ 『農民

どが関心を呼びました。 をリアルに描いた『農薬禍』な 農薬全盛時代の農民の農薬中毒 微鏡映像で紹介した『根の国』 の描いた『石おじさんの蓮池』な の村の開発を伝統の相克を描い の種子を守るたたかいを描いた ジョンの真実』、インドの小農民 と自然保護の関係をユーモラス た『懐かしい未来』、台湾の農薬 と海外の作品も上映され、反響 種子を守れ!」、ヒマラヤ山麓

回を東京・オリンピック青少年 和」(仮)というテーマで、第一 を呼びました。 センターで開催します。 ぜひご 十一月十六日に、「土からの平 なお、この映画祭は、○八年

#### 上映映画一覧

『食の未来』(2004年/米国) 『種子を守れ!』(1994年/インド) 『死の季節よ、さらば』(2006年/フィリピン) 『危険なオレンジ』(2005年/タイ) 『あぶない野菜』(2002年/日本) 『農民ジョンの真実』(2005年/米国) 『根の国』(1981年/日本) 『農薬禍』(1967年/日本) 『日本の公害経験~農薬その光と影』(2007年/日本) 『懐かしい未来』(1992年/英国)

『地域から始まる未来』(1998年/英国) 『石おじさんの蓮池』(2005年/台湾)

『サルー! ハバナ キューバ都市農業リポート』(2006 年/日本) 『自然農-川口由一の世界 1995年の記録』(1997年/日本)



当日の会場は多くの観客で埋め尽くされた。農業に関わる 人々だけでなく、若い人の姿も多く見受けられた。

#### 募金にご協力ありがとうございます

JVCの活動は、皆さまの募金に支えられています。 JVCへの募金は税の優遇措置を受けることができます。

#### ① JVC 募金 (郵便振替)

JVC の各国での活動に役立てられます。募金先 をご指定いただくこともできます。

口座番号:00190-9-27495 加入者名: JVC 東京事務所 11月計 2,403,997 円 12月計 2.866,066 円

	11月	12月
無指定	823,502円	378,919円
タイ	4,000円	19,500円
カンボジア	7,000円	440,500円
ラオス	118,000円	183,450円
ベトナム	47,480円	10,500円
南アフリカ	11,000円	95,500円
パレスチナ	515,815円	1,112,681円
アフガニスタン	17,000円	335,402円
コリア	1,000円	30,000円
イラク	859,200円	198,614円
スーダン	0円	61,000円

#### ②犬養道子「みどり一本」募金

JVC 活動地での環境保全活動に使われます。

. . . . . . . . . . . . . . . . . . .

口座番号:00100-8-212497 加入者名:犬養道子「みどり一本」

11月計 173,500 円 / 18 件 12月計 342.446 円 / 35 件

#### ③ JVC マンスリー募金

銀行や郵便局の口座からの自動引き落としを利 用する手軽な募金方法です。

11月計 1,541,200 円 / 1,361 件 12月計 1.537.200 円 / 1.362 件

#### 編集後記

最近、自転車で遠乗りに出れていない。 それどころか、まともに体を動かしていな い気もする。仕事が立て込んでるとは言え それは運動不足の言い訳にはならないか。 ただでさえ世知辛くなる一方の世の中で、 くだらないことで一杯になりそうな頭をリ セットするには、やはり運動が一番だ。肉 体を限界近くまで酷使して、「生きる本能」 を思い出すしかない。よし、今週末、走っ てこよう…寒くなかったらね (ォィ)。(H)

#### JVC 国際協力工

大阪公演:621名、

(コンサート事務局

石川

朋子

東京公演: 1.475 名の方々に ご来場いただきました。

盛会の内に終了いたしました。

りました。 JVCを支える人の輪が大きくな 企業が増えたりと、 なってくださったり、 合唱団から ているこの公演。 金をつくる 一名がJVCの会員に という目的で開催し 昨年も、 公演を通 新しい協替

JVCと国際協力活動を知って

来場者アンケートより 久しぶりに生の演奏とコーラス せいか、 ボランティア精神が根底にある いいなと思う一時でし 人一人が少しでも力になれ かな日々を暮らせるように、 ているのが感じられた。 世界の皆が平和でおだや JVCの活動を支える資 穏やかな気分になりま 皆がひとつにまとまっ

#### 歌声ボランティア募集します

今年20周年を迎える東京公演に出演する合唱団員を募集します。

演目:ヘンデル『メサイア』、 練習:4月2日~

お問い合せ: コンサート事務局 (TEL: 03-3836-4108、tomoko@ngo-jvc.net)



#### JVC 国際協力カレンダー 2008 『子ども日記@地球』

ご利用いただき、ありがとうございます。

五千部強のご注文をいただくことがで

富士火災海上保険労働組合から

また前号でご紹介したよ

壁掛け&卓上 合わせて

27,000部。

て卓上型を作ってみました。

結果とし

皆様から二千五百部ほどのご注文

・C国際協力カレンダー。

昨年は初め

毎年皆様にご利用いただいている!

ディアをお聞かせください ラマンの白川由紀さんにご協力い 展開する予定です。 やパレスチナをはじめとする各国での 支援活動に使わせていただきます。 きました。 に喜んでいただける使い勝手のよいカ 七十万円の収益金は、アフガニスタン /ダーをお届けしたいと、 100九年カレンダーは、 アジア・アフリカの情景写真で (カレンダー事務局 会員の皆さまのご意見、 合計で売上アップ。 形も写真も、 荻野 あ 女性. 皆様 ア ただ カメ

会員専用ページパスワード (3~4月) →→→ H9tRRpw3Cm

※ JVC ホームページの会員専用ページでは、T&Eのバックナンバーを順次公開 中です。現在、この作業を手伝って下さる方を募集中。細野までご連絡を!

九

### 暮らしを彩る道具

LIFEWORK ITEMS

Viet Nam



#### 竹で編んだボート

舟を岸につけられないような場所で、沖に泊めた舟と陸とを行き来するために 漁師たちが作ったボート。直径2メートルほどで、1~2人用のようだ。 目止めには牛のフンが使われていた。 (ベトナム中部クワンガイ省にて/中井幹雄氏撮影)

日本国際ボランティアセンター (Japan International Volunteer Center) は、1980年2月、タイのバンコクで誕生した市民による国際協力団体です。JVC の活動目的は、国 際社会のなかで、社会的、精神的、物理的に困難な立場を強いられているアジアやアフリカ・中東の人びとに協力すると同時に、地球環境を守る新しい生き方と人間関係をつくり出そうということにあります。そのため私たちは、自らの意志で JVC に参加し、活動を継続してきました。JVC はボランティアという言葉を、「自発的意志をもって、責任あ る行動をとる」という意味で団体名として使っています。

#### ■JVCでは会員を募集しています。

会員は総会に出席し、JVCの方針などを決定するほか、 情報・資料の入手、各種の活動・報告会・学習会等へ参 加することができます。会員の方には年6回この会報誌と 年次報告書をお届けします。

◎一般会員

10,000円

◎学生会員

5,000 円

◎団体会員

30,000 円

※それぞれに正会員と賛助会員があります。

入会のお申し込み、会員の方のメールマガジンのお申し 込み、住所変更などは会員担当の寺西へ。

→ s-tera@ngo-jvc.net

会員数 (2月4日現在) 合計 1,382人 (正会員 662人 賛助会員 720人)

#### ■オリエンテーション(説明会)へお越しください。

JVCの活動内容をご紹介しています。お気軽にご参加ください。 (無料。予約不要です)

午後7:00-8:30

第1月曜日 第2・第4土曜日 午後2:00-3:30

※会場は JVC 東京事務所です。

#### ■ホームページ ■ E-mail

info@ngo-jvc.net

http://www.ngo-jvc.net/

※本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。

本誌は、日本の森の間伐材を有効利用して作られた用紙 「間伐材印刷用紙」(古紙90%、間伐材パルプ10%)で 作成しました。

